

# コロンビア

Republic of Colombia

	2012年	2013年	2014年
①人口：4,766万人（2014年）			
②面積：114万1,748km <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP：7,930米ドル （2014年）			
④実質GDP成長率（%）	4.0	4.9	4.6
⑤消費者物価上昇率（%）	2.44	1.94	3.66
⑥失業率（%）	10.4	9.6	9.1
⑦貿易収支（100万米ドル、 FOB-FOB）	△839	△2,745	△4,487
⑧経常収支（100万米ドル）	△11,306	△12,330	△19,780
⑨外貨準備高（100万米ドル）	37,467	43,633	47,323
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル）	78,734	91,973	101,231
⑪為替レート（1米ドルにつき、 コロンビア・ペソ、期中平均）	1,798.23	1,868.90	2,000.68

〔注〕⑦：国際収支ベース（財・サービス）  
〔出所〕①②④～⑦：国家統計庁（DANE）、③⑧～⑩：コロンビア中央銀行

コロンビアの2014年の実質GDP成長率は、好調な内需に支えられて4.6%となった。輸出は原油安の影響で減少したが、輸入は5年連続で過去最高を更新し、貿易赤字は拡大している。対内直接投資は石油、鉱業分野への投資が減少する一方、好調な内需に牽引されて製造業、金融、通信、建設分野などが伸びた。対日貿易は前年比で増加するも、貿易額全体に占める比率は低いため、日本・コロンビア経済連携協定（EPA）の交渉終了に期待が高まっている。

## 好調な内需により高い成長率を持続

国家統計庁（DANE）の国民経済計算統計によると、2014年の実質GDP成長率は4.6%と前年（4.9%）よりは鈍化したものの高成長を維持した。これは、内需が堅調に推移したことによる。GDPを需要項目別にみると、成長を支えたのは、民間最終消費支出と国内総固定資本形成である。GDPの約65%を占める民間最終消費支出は4.4%増と前年の3.8%増から加速した。消費の伸びを財別にみると耐久消費財が7.6%増、半耐久消費財が4.6%増、サービスが4.3%増、非耐久消費財が3.8%増となった。特に自動車販売が好調だったため、耐久消費財が大きく伸びた。国内総固定資本形成は前年の6.0%成長から大きく伸び、10.9%の2桁増を記録した。企業の好調な業績を反映した設備投資や建設投資が増加した。

産業分野別にみると、好調な内需を受け、サービス分野が堅調な伸びをみせた。増加寄与率が大きい順にみると、金融・保険・不動産・企業向けサービスは全体で前

年比4.9%増となった。次いで社会・地域・個人サービスが5.5%増と好調、建設部門（9.9%増）と続く。建設部門では、土木工事が12.0%増、ビル建設・補修が7.4%増と好調だった。老朽化した一戸建て住宅や商業ビルを更地にして新しい集合住宅や商業ビルを建設する動きが続いていることや、政府の無償住宅プログラムが建設産業の追い風となっている。一方で、2010年以降の高成長を牽引してきた鉱業（石油・石炭など）は2014年第3四半期以降の原油価格急落の影響を受け、0.2%減となり、2004年以来10年ぶりのマイナス成長となった。

原油相場の低迷や家計消費の減速が懸念されることからコロンビア中央銀行は2015年5月、2015年のGDP成長率見通しを3.1～3.2%と、4月時点の3.6%から下方修正した。

## 輸出は原油安の影響で減少

2014年の貿易を通関統計でみると、輸出（FOB）は前年比6.8%減の547億9,500万ドル、輸入（CIF）は7.8%増の640億2,900万ドル、貿易収支は92億3,400万ドルの赤字となり、赤字幅は前年より86億7,700万ドル拡大した。

2014年の輸出が減少した最大の要因は、原油価格の下落により原油輸出額が6.8%減の257億6,100万ドルとなったことだ。コロンビア石油協会（ACP）によると、2014年のコロンビア産原油の平均輸出価格は1

表1 コロンビアの需要項目別実質GDP成長率

	2013年	2014年	2014年				2015年 Q1
			Q1	Q2	Q3	Q4	
実質GDP成長率	4.9	4.6	6.5	4.1	4.2	3.5	2.8
民間最終消費支出	3.8	4.4	4.2	3.8	4.1	5.3	3.9
政府最終消費支出	9.2	6.2	9.5	6.6	5.3	3.8	2.3
国内総固定資本形成	6.0	10.9	13.3	8.6	11.8	10.1	6.0
財貨・サービスの輸出	5.3	△1.7	3.2	△12.1	4.2	△0.6	1.3
財貨・サービスの輸入	6.4	9.2	9.0	5.0	8.1	14.4	8.1

〔注〕四半期の伸び率は前年同期比。

〔出所〕国家統計庁（DANE）

表2 コロンビアの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2013年		2014年			2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
農林水産食料品	6,680	7,343	13.4	9.9	農林水産食料品	6,348	6,508	10.2	2.5
コーヒー	2,270	2,894	5.3	27.5	穀物	1,980	1,831	2.9	△7.6
肉類・野菜類の未加工品	1,380	1,427	2.6	3.5	飼料	843	881	1.4	4.4
豆類・果実	895	985	1.8	10.0	豆類・果実	542	583	0.9	7.5
工業製品	9,945	9,391	17.1	△5.6	工業製品	45,614	48,736	76.1	6.8
プラスチック原料	1,023	1,042	1.9	1.8	自動車	5,958	6,655	10.4	11.7
鉄鋼製品	854	780	1.4	△8.7	通信・音響・映像機器	3,758	4,231	6.6	12.6
エッセンシャルオイル・芳香剤など	748	685	1.2	△8.4	一般産業機械	2,843	3,065	4.8	7.8
化学製品	598	561	1.0	△6.1	その他輸送機械	2,700	2,706	4.2	0.2
衣料品・装飾品	615	546	1.0	△11.2	鉄鋼・同製品	2,380	2,654	4.1	11.5
鉱物性燃料	39,923	36,461	66.5	△8.7	医薬品	2,466	2,536	4.0	2.8
石油・同調製品	32,029	28,625	52.2	△10.6	有機化学品	2,378	2,337	3.6	△1.8
石炭	6,688	6,810	12.4	1.8	鉱物性燃料	7,326	8,525	13.3	16.4
その他製品	2,275	1,600	2.9	△29.7	石油・同調製品	6,380	7,547	11.8	18.3
金(マネタリーゴールドを除く)	2,256	1,587	2.9	△29.7	非鉄金属	761	814	1.3	6.9
合計	58,824	54,795	100.0	△6.8	合計(その他含む)	59,381	64,029	100.0	7.8

(出所) 国家統計庁 (DANE)

表3 コロンビアの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	輸出 (FOB)				輸入 (CIF)			
	2013年		2014年		2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
北米 (NAFTA)	19,713	15,685	28.6	△20.4	22,834	24,630	38.5	7.9
米国	18,459	14,106	25.7	△23.6	16,337	18,193	28.4	11.4
メキシコ	864	914	1.7	5.9	5,496	5,273	8.2	△4.1
カナダ	390	665	1.2	70.4	1,001	1,165	1.8	16.3
ALADI	12,541	11,699	21.4	△6.7	8,198	7,723	12.1	△5.8
アンデス共同体	3,392	3,210	5.9	△5.4	2,300	2,675	4.2	16.3
エクアドル	1,975	1,884	3.4	△4.6	882	918	1.4	4.2
ペルー	1,274	1,187	2.2	△6.9	870	1,205	1.9	38.5
ボリビア	144	139	0.3	△3.4	548	552	0.9	0.7
その他ALADI	9,148	8,490	15.5	△7.2	5,898	5,049	7.9	△14.4
パナマ	3,219	3,615	6.6	12.3	59	56	0.1	△5.9
ベネズエラ	2,256	1,987	3.6	△11.9	431	440	0.7	2.0
ブラジル	1,591	1,622	3.0	2.0	2,590	2,466	3.9	△4.8
チリ	1,572	989	1.8	△37.1	904	929	1.5	2.8
アルゼンチン	433	201	0.4	△53.6	1,734	1,009	1.6	△41.8
EU28	9,290	9,406	17.2	1.3	7,949	8,761	13.7	10.2
スペイン	2,879	3,263	6.0	13.4	963	967	1.5	0.4
オランダ	2,273	2,117	3.9	△6.8	327	294	0.5	△10.0
英国	1,116	1,090	2.0	△2.3	511	598	0.9	17.1
イタリア	465	962	1.8	107.0	1,011	982	1.5	△2.8
ドイツ	780	634	1.2	△18.8	2,207	2,531	4.0	14.7
フランス	327	144	0.3	△56.0	1,433	1,840	2.9	28.4
アジア	8,776	9,666	17.6	10.1	14,839	16,805	26.2	13.3
中国	5,104	5,755	10.5	12.8	10,363	11,790	18.4	13.8
インド	2,993	2,739	5.0	△8.5	1,144	1,369	2.1	19.7
韓国	230	520	0.9	126.0	1,296	1,500	2.3	15.7
日本	388	421	0.8	8.5	1,479	1,525	2.4	3.2
合計(その他含む)	58,824	54,795	100.0	△6.8	59,381	64,029	100.0	7.8

[注] ①ラテンアメリカ統合連合 (ALADI) は、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、キューバ、エクアドル、メキシコ、パナマ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラからなる。

アンデス共同体は、ボリビア、コロンビア、エクアドル、ペルーからなる。

②「ALADI」「その他ALADI」はメキシコを除いた数値。

(出所) 国家統計庁 (DANE)

バレル当たり88.4ドルであり、前年比11.8%下落した。原油以外も含めた石油・同調製品の輸出額でみると、10.6%

減の286億2,500万ドル(数量ベースでは前年比0.8%増の4,778万トン)となった。

石油に続いて輸出額が大きく減少したのは金で、29.7%減の15億8,700万ドル。これは原油価格の低下と輸出量の減少の双方の影響によるもので、2014年の輸出平均価格は前年比15.1%低下、輸出量は前年比16.3%減少した。鉱業庁によると、金の国内生産量は前年比2.3%増加したが、輸出量の76.8%を占める米国向けの輸出が24.1%減と不振だった。なお、工業製品はプラスチック原料が1.8%増と微増だったが、鉄鋼製品などその他の主要品目が軒並み減少し、全体で5.6%減の93億9,100万ドルとなった。

他方、輸出額が伸びたのは農林水産食料品(73億4,300万ドル、構成比13.4%)であり、9.9%増となった。主要産品であるコーヒーが27.5%増と急増した影響が大きい。数量ベースの増加(前年比13.6%増)に加え、国際価格の上昇も寄与した。国際コーヒー機構(ICO)によると、2014年のコロンビア・マイルド種の平均国際価格は、1ポンド当たり197.95セントであり、前年比33.9%上昇した。

主要国別に輸出をみると、最大の仕向け地である米国向けが前年比23.6%減少し、最も減少額が大きかった。対米輸出の6割以上を占める石油・同調製品が89億7,000万ドルと31.6%減少した影響が大きい。これは、価格の低下のほかに、米国が

シェール革命により国内での原油生産が増加したため、原油輸入を縮小させていることによる。他方、2位の中国（57億5,500万ドル、12.8%増）、3位のパナマ（36億1,500万ドル、12.3%増）は2桁増を記録した。中国向けも石油・同調製品が最大の輸出品目（構成比9割以上）だが、数量の増加が価格の低下を大きく上回り、20.5%増加した。数量の増加は、減少した米国向け原油輸出を補うため、中国をはじめ、インド、韓国などのアジア諸国を新たな市場とし、輸出先多角化に取り組んでいることによる。地域別にみると、北米が1位、ラテンアメリカ統合連合（ALADI）が2位の輸出先だが、3位には従来のEUに代わり、中国が牽引するかたちでアジアが入った。

### ■ 輸入は5年連続で過去最高を更新

2014年の輸入は前年比7.8%増の640億2,900万ドルと5年連続で過去最高を更新した。増加額の大きな品目を順にみると、輸入全体の76.1%を占める工業製品の輸入が好調な内需を反映し、自動車や通信・音響・映像機器などを中心に6.8%増加した。次いで鉱物性燃料が16.4%増の85億2,500万ドルとなり13.3%を占めた。これは、ガソリンの多くを輸入に依存していることによる。

主要国別にみると、最大の輸入相手国である米国からガソリン・ディーゼル油を中心に11.4%増の181億9,300万ドルへと拡大し、28.4%を占めた。続いて輸入額が増加したのは中国であり、携帯電話やコンピューターを中心に13.8%増の117億9,000万ドル。欧州最大の輸入相手国であるドイツからの輸入も14.7%増の25億3,100万ドルとなり、輸入増に寄与した。他方、減少額が大きかったのはアルゼンチン、メキシコ、ブラジルである。アルゼンチンはトウモロコシなどの穀物を中心に41.8%減の10億900万ドルとなった。輸入相手国3位のメキシコは4.1%減の52億7,300万ドルと落ち込み、ブラジルからの輸入も4.8%減少した。地域別にみると、中国、インド、韓国からの輸入が拡大してアジアからの輸入が13.3%と大きく伸び、構成比は北米（NAFTA）の38.5%に次ぐ26.2%に達した。インドからは自動車や繊維、韓国からはプラスチック樹脂や電子機器の輸入が増加した。

### ■ パナマとのFTAの発効に遅れ

コロンビアは現在12のFTAを締結している。2014年の貿易におけるFTAカバー率は往復貿易で65.4%となり、前年の65.3%とほぼ同率だった。署名済みだが未発効のFTAの批准状況をみると、既存の二国間FTAをチリ、コロンビア、メキシコ、ペルーの4カ国の広域FTAに深化させる太平洋同盟の追加議定書は各国で批准審議

表4 コロンビアのFTA発効・署名・交渉状況

(単位：%)

	締結相手国・地域	コロンビアの貿易に占める構成比 (2014年)		
		往復	輸出	輸入
発効済み	米国	27.2	25.7	28.4
	EU28	15.3	17.2	13.7
	メキシコ	5.2	1.7	8.2
	チリ	1.6	1.8	1.5
	カナダ	1.5	1.2	1.8
	アンデス共同体	5.0	5.9	4.2
	メルコスール	6.6	7.0	6.3
	欧州自由貿易連合 (EFTA)	0.9	1.0	0.9
	カリブ共同体 (CARICOM)	1.5	2.4	0.8
	中米北部3カ国	0.5	0.8	0.2
	ニカラグア	0.0	0.0	0.0
	キューバ	0.0	0.1	0.0
	合計	65.4	64.7	66.0
署名済み	コスタリカ	0.3	0.5	0.1
	パナマ	3.1	6.6	0.1
	韓国	1.7	0.9	2.3
	太平洋同盟	8.8	5.6	11.6
	イスラエル	0.7	1.0	0.5
交渉中	日本	1.6	0.8	2.4
	トルコ	0.9	1.6	0.3

〔注〕①カリブ共同体 (CARICOM) は、アンティグア・バーブーダ、バハマ (諸島)、バルバドス、ベリーズ、ドミニカ、グレナダ、ガイアナ、ハイチ、ジャマイカ、セントクリストファー・ネビス、セントルシア、セントビンセント・グレナディーン、スリナム、トリニダード・トバゴ、モントセラト (英)。

②中米北部3カ国は、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル。

〔出所〕 国家統計庁 (DANE)

が遅れており、発効は2015年末もしくは2016年前半になるもよう。対パナマは2013年9月に署名されたが、パナマのコロンフリーゾーンを経由して輸出される履物や繊維製品に対してコロンビアが課している複合関税が原因で、批准審議が遅れている。パナマのメリトン・アローチャ・ルイス商工相は2015年1月、同複合関税の問題が解決しない限りコロンビアとのFTA批准法案を国会に提出できないと発言しており、発効までには時間を要すると考えられる。対韓国は2013年2月に署名され、2014年12月に批准法案が議会を通過した。今後、コロンビアの憲法裁判所の承認を経て発効となる。FTA発効後、関税品目数ベースで98%の品目の関税が即時撤廃となり、韓国からコロンビアへの最大の輸出品目である自動車 (現行関税率は35%) を含む残りの2%については段階的に撤廃される。

日本とは第11回交渉を2015年5月に開催した。コロンビアは飲料・菓子類などの食料品や皮革・履物などの工業製品の対日輸出拡大を目指している。コロンビア商工観光省のハビエル・ガンボア・ベナビデス主席通商交渉官は、目標としては2015年に交渉を終える予定だが、両国サイドが交渉結果に満足するまで交渉は続くとし、安易に交渉終結を急ぐ気はないと明言した。



## ■2014年の対内直接投資は前年比で微減

2014年の対内直接投資額（中央銀行統計、国際収支ベース、ネット、フロー）をみると、前年比0.9%減の160億5,400万ドルと、史上最高額を記録した2013年から微減となった。2014年上半期は前年同期比9.8%増と前年を上回るペースであったが、国際原油価格の下落に伴い、下半期の投資額は11.9%減と伸び悩んだ。

前年比で減少した要因は、石油、鉱業部門にある。同部門は2008年以降、最大の投資受け入れ部門だが、2014年は石油が48億3,700万ドル（前年比5.4%減、構成比30.1%）、鉱業（石炭含む）は15億8,200万ドル（46.9%減、9.9%）と大幅に減少した。石油、鉱業などの大規模プロジェクト実施には環境ライセンスの取得が必要だが、許可取得までに2年以上かかるケースもあるなど開発プロジェクトの遅延につながっている。許認可の遅延および2014年下半期からの国際原油価格の下落が、同分野への投資意欲を削いだとみられている。

他方、治安改善や国内経済の好調により、その他の部門は商業・外食・ホテル、農林水産を除いて増加した。投資が拡大した順にみると、金融・不動産（24億7,800万ドル、前年比54.4%増）、運輸・倉庫・通信（19億2,100万ドル、38.6%増）、製造業（29億2,800万ドル、13.0%増）、建設（6億6,100万ドル、74.9%増）の増加が大きい。

主要地域別に2014年の対内直接投資額をみると、欧州（70億6,100万ドル、前年比16.1%増）、中米（25億1,900万ドル、21.7%増）、南米（9億4,400万ドル、5.9%増）、アジア・大洋州（1億3,700万ドル、4.6%増）からの投資が伸びる一方、北米（32億6,300万ドル、11.2%減）、カリブ島しょ地域（21億6,200万ドル、32.9%減）からの投資が減少した。

投資額が大きく増加した順で国別にみると、スペインは前年比約2.3倍の21億5,500万ドルへと拡大した。2014年は大型案件こそなかったものの、金融、企業向けサービス、運輸、商業、建設などの業種で多数の投資が行われた。続いてスイスが35.1%増の28億1,400万ドルとなり、米国を抜いて最大の投資国となった。保険会社スイス・リーによる買収案件が投資額を押し上げたと思われる。近年、スイス、スペインなど欧州諸国のコロンビア市場に向けた投資は旺盛である。一方、2013年の最大の投資国であった米国は22.7%減と大きく減少した。

2014年における主な対内直接投資案件をみると、通信、石油・天然資

源、金融、不動産、製造業などに大型案件が目立つ。通信では、ルクセンブルクのミリコム・インターナショナル・セルラーがコロンビア通信大手UNEの株式50%を取得し、移動通信部門の強化を図る。また、ウルグアイの通信会社ソナアメリカは、コロンビア第3の都市、カリ市にテクノロジーパークを設立した。石油・天然資源では、米国のダービー・プライベート・エクイティによる企業買収やカナダのパシフィック・ルビアーレス・エナジーとベルギーのエクスマールのグリーンフィールド投資、金融では、フランスのアクサ・グループがコロンビア銀行との合併会社を設立したほか、世界2位のスイスの再保険会社スイス・リーが、コロンビアの保険会社コンフィアンサの株式51%を取得する（具体的な投資額は未発表）などの大型案件があった。不動産ではボゴタ近郊の複数のショッピングモール建設などの動きがある。製造業ではノルウェーの大手肥料メーカーのヤラによるコロンビアの肥料大手アボノのカルタヘナ工場買収などが挙げられる。

## ■対外直接投資では欧州向けが約5割

2014年の対外直接投資額（中央銀行統計、国際収支ベース、ネット、フロー）は38億9,800万ドルとなり、前年比49.0%減と大幅に減少した。部門別にみると、石油・鉱業分野を除くほとんど全ての部門において前年の水準を下回った。前年比で投資が増えたのは石油・石炭等のエネルギー・鉱業部門（前年比17.9%増）、商業・外食・ホテル部門（前年は引き揚げ超過）である。

主要地域別にみると、欧州向けが増えたほかは、北米、中米、南米、カリブ島しょ地域向けが減少した。欧州向けは64.8%増の18億9,400万ドルとなり、対外直接投資全体の約5割を占めた。欧州向けの投資を牽引したのはスペイン向け（10億9,300万ドル、52.3%増）であり、欧州向け投資の6割弱、対外直接投資総額の3割弱を占めた。

表5 コロンビアの業種別対内・対外直接投資<国際収支ベース、ネット、フロー>

(単位: 100万ドル、%)

	対内直接投資				対外直接投資			
	2013年		2014年		2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
石油	5,112	4,837	30.1	△5.4	1,516	1,788	45.9	17.9
鉱業（石炭含む）	2,977	1,582	9.9	△46.9				
製造業	2,590	2,928	18.2	13.0	1,477	832	21.3	△43.6
金融・不動産	1,606	2,478	15.4	54.4	3,768	653	16.8	△82.7
運輸・倉庫・通信	1,386	1,921	12.0	38.6	△2	△467	-	-
商業・外食・ホテル	1,136	840	5.2	△26.1	△54	287	7.4	-
建設	378	661	4.1	74.9	76	68	1.7	△10.4
電力・ガス・水道	395	458	2.9	15.7	644	632	16.2	△1.9
農林水産	296	199	1.2	△32.9	33	9	0.2	△72.4
合計（その他含む）	16,200	16,054	100.0	△0.9	7,652	3,899	100.0	△49.0

[注] 金額は推定値。

[出所] コロンビア中央銀行（2015年4月）

2014年におけるコロンビアの主な対外直接投資案件をみると、セメント大手のアルゴスは1月、米国フロリダ州のバルカン・マテリアルズを買収し、米国南東部における2位のセメント会社となったと発表した。その他の大型案件としては、エネルギー分野でグループ・エネ

ル・デ・ボゴタによるペルーの天然ガス・パイプライン運営会社の株式取得（6億5,000万ドル）、ボゴタ電力会社によるブラジルの送電事業者の株式取得（1億7,000万ドル）などがある。

## ■日コロンビアEPA交渉の早期妥結に期待

国家統計庁（DANE）の通関統計によると、2014年の対日輸出は前年比8.5%増の4億2,100万ドル、対日輸入は3.2%増の15億2,500万ドル、貿易収支は11億500万ドルの赤字となり、赤字幅は1,400万ドル拡大した。

輸出増加額が大きい順で品目別にみると、フェロニッケルが前年比88.1%増の6,600万ドルに拡大し、構成比は前年の9.1%から15.7%に拡大した。続いて対日輸出額の過半を占め、最大の輸出品目であるコーヒーが4.2%増加し、2億3,600万ドルとなった。その他、エメラルド等の貴石・半貴石、コーヒー調製品、切り花と続く。

2015年2月末、日本政府との間で家畜衛生条件が定められたため、コロンビアから日本向けの鶏肉輸出が一定条件下で可能になった。しかし、条件の一つとしてコロンビアの家畜衛生当局が生産施設の認定を行う必要があり、同認定施設が

表6 コロンビアの国・地域別対内・対外直接投資  
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

(単位：100万ドル、%)

	対内直接投資				対外直接投資			
	2013年		2014年		2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
北米 (NAFTA)	3,674	3,263	20.3	△11.2	337	△178	-	-
米国	2,861	2,213	13.8	△22.7	307	280	7.2	△8.7
メキシコ	565	618	3.9	9.5	30	△459	-	-
カナダ	248	432	2.7	74.0	0	1	0.0	281.2
欧州	6,083	7,061	44.0	16.1	1,149	1,894	48.6	64.8
スイス	2,084	2,814	17.5	35.1	100	100	2.6	0.2
スペイン	951	2,155	13.4	126.7	718	1,093	28.0	52.3
英国	1,416	1,080	6.7	△23.8	293	365	9.4	24.4
オランダ	580	419	2.6	△27.6	6	317	8.1	5,648.5
カリブ島しょ地域	3,222	2,162	13.5	△32.9	912	654	16.8	△28.3
バミューダ諸島	846	1,070	6.7	26.4	769	522	13.4	△32.2
バルバドス	418	535	3.3	27.9	10	-	-	全減
中米	2,070	2,519	15.7	21.7	3,674	609	15.6	△83.4
パナマ	2,055	2,453	15.3	19.4	3,201	517	13.3	△83.8
南米	891	944	5.9	5.9	1,592	833	21.4	△47.7
チリ	319	456	2.8	43.1	680	193	5.0	△71.6
ペルー	76	266	1.7	251.5	634	223	5.7	△64.8
ベネズエラ	91	115	0.7	26.7	1	8	0.2	588.2
アジア・大洋州	131	137	0.9	4.6	0	1	0.0	198.4
日本	67	56	0.3	△16.9	△0	△0	△0.0	-
オーストラリア	7	34	0.2	384.8	-	-	-	-
中国	22	29	0.2	33.6	0	1	0.0	134.9
合計(その他含む)	16,199	16,054	100.0	△0.9	7,651	3,898	100.0	△49.0

〔注〕金額は推定値。

〔出所〕コロンビア中央銀行（2015年4月）

表7 コロンビアの主な対内直接投資案件（2014年）

(単位：ドル)

業種	企業名	国籍	時期	投資額	概要
通信会社	ミリコム・インターナショナル・セルラー	ルクセンブルク	2月13日	8億6,700万	UNEの50%株式を取得。
石油・天然資源	ダービー・プライベート・エクイティ	米国	4月1日	3億8,500万	カナダ資本パシフィック・ルビアーレス（Pacific Rubiales）の5%株式購入を発表。
金融	アクサ・グループ	フランス	4月3日	3億5,700万	コロンビアのコルパトリア銀行と合弁会社を設立。51%の株式を取得。
石油・天然資源	パシフィック・ルビアーレス・エナジー、エクスマール	カナダ・ベルギー	4月24日	2億4,500万	海上に浮かぶ液化天然ガス（LNG）工場を買収し、ベルギーのエクスマールが運営し、パシフィック・ルビアーレスエナジーが輸出を行う。国際金融公社（IFC）が2億4,500万ドルを融資。
不動産	スペクトラム	グアテマラ	4月10日	2億	アマリールと提携し、ボゴタ郊外のチアにショッピングモール建設。
製造業	日産自動車	日本	6月3日	n.a.	ボゴタに販売ショールームを建設、全国36カ所に販売・サービス拠点を設立。
投資会社	パトリア・インベストメント	ブラジル	10月1日	5億	新たな投資ファンドを設立。
製造業	ヤラ	ノルウェー	10月3日	3億7,700万	大手肥料メーカーヤラは、アボノのカルタヘナ工場を買収。
不動産	ロブレ・グループ	エルサルバドル	11月5日	2億7,000万	2016年第3四半期オープンに向け、ボゴタにショッピングモールを建設。
金融	スイス・リー	スイス	11月6日	n.a.	世界2位のスイスの再保険会社スイス・リーはコロンビアのコンフィアンサの51%の株式を取得。
通信会社	ソナムアメリカ	ウルグアイ	12月5日	3億5,000万	バジェデルカウカ県カリ市に、テクノロジーパークを設立。

〔出所〕貿易投資観光推進機構（Procolombia）資料

表8 コロンビアの主な対外直接投資案件（2014年）

（単位：ドル）

業種	企業名	投資国・地域	時期	投資額	概要
セメント	アルゴス	米国	1月24日	7億2,000万	米国フロリダ州のバルカン・マテリアルズを7億2,000万ドルで買収。米国南東部の2位のセメント会社となる。
エネルギー	グルーボ・エネルギー・デ・ボゴタ	ペルー	1月17日	6億5,000万	ペルーの天然ガス・パイプライン運営会社トランスボルタドーラ・デ・ガス・デ・ペルーの株式23.61%を取得。
金融	バンコロンビア	パナマ、エルサルバドル	3月18日	1億3,000万	パナマに7,500万ドルの投資、エルサルバドルに5,500万ドルを投資。
エネルギー	ボゴタ電力会社	ブラジル	3月27日	1億7,000万	Jマルセリ・エネルギー、Jマルセリ建設会社、およびデセンビックスと四つの送電事業者の株式51%を取得する契約を締結。
食品	マヤグエス	ニカラグア	11月3日	3億	コロンビア大手砂糖・エタノール会社のマヤグエスはニカラグアのカスール・シュガー・ホールディングスの株式60%を取得。

〔出所〕 各社発表および報道などから作成

表9 コロンビアの対日主要品目別輸出入＜通関ベース＞

（単位：100万ドル、%）

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2013年		2014年			2013年		2014年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
伝統産品	274	313	74.3	14.0	自動車	296	330	21.7	11.8
コーヒー	227	236	56.1	4.2	鉄鋼・同製品	243	302	19.8	24.0
フェロニッケル	35	66	15.7	88.1	タイヤ・ゴム類	165	135	8.8	△18.5
石炭	12	10	2.5	△17.2	機械類（ブルドーザー等）	87	52	3.4	△39.5
非伝統産品	114	108	25.7	△4.7	印刷機	51	51	3.3	△1.2
切り花	52	54	12.7	2.8	自動車部品	43	49	3.2	15.2
コーヒー調製品	17	19	4.4	10.4	医療機器	30	31	2.0	0.9
殺虫剤・殺菌剤	22	13	3.2	△39.8	エンジン部品	27	30	2.0	13.2
貴石・半貴石	4	6	1.3	51.0	ボールベアリング	24	26	1.7	10.9
二酸化マンガ	2	3	0.7	57.3	遠心分離機（乾燥機等）	16	19	1.3	17.2
バナナ	2	2	0.5	7.4	ピストン火花点火式内燃機関	18	18	1.2	△3.7
ジャージー、カーディガン、ベスト	1	1	0.3	△25.2	トランスミッション	16	17	1.1	8.1
観賞魚（淡水魚）	1	1	0.2	△4.6	モーターサイクル	20	15	1.0	△23.9
合計	388	421	100.0	8.5	合計（その他含む）	1,479	1,525	100.0	3.2

〔出所〕 国家統計庁（DANE）

日本政府に通知された後に輸出が開始される。コロンビアの鶏肉の輸出は、2014年時点で287万ドルとわずかだが、仕向け国に日本が加わることで輸出拡大を目指す。

他方、対日輸入をみると、国別では日本は昨年と同じく7位の輸入相手国だが、構成比は前年の2.5%から2.4%に低下した。品目別に輸入増加額が大きかったのを見ると、鉄鋼・同製品が前年比24.0%増の3億200万ドルとなり、構成比は前年の16.5%から19.8%に拡大した。続いて自動車が増の3億3,000万ドルとなり、構成比は21.7%となった。コロンビアにおける2014年の新車販売台数は前年比11.8%増の32万8,526台と過去最高を記録し、輸入車は全体の約3分の2を占める。日本車は6万1,950台（構成比18.9%）の販売台数を記録し、前年比で約13%増加した。

2014年の日本からの直接投資額は前年比16.9%減の

5,600万ドルであった。これは対内直接投資総額の0.3%にすぎない。日本企業の主な投資案件としては、好調な自動車市場での販売強化を目的として、日産自動車がボゴタにショールームを建設、全国36カ所に販売・サービス拠点を設立したことが挙げられる。製造業では古河電気工業がカリ市の自由貿易地区（フリーゾーン）に光ファイバー工場を建設し、8月に操業を開始した。カスタムはボゴタ近郊で医療機器用精密鋳造部品の工場設立に向けて用地を取得した。これは、日本の中小製造業で初めてのコロンビア進出となる。

2014年7月に安倍首相が初の現職総理大臣として、コロンビアを公式訪問するなど両国の経済関係は深化している。日本・コロンビアEPAの締結交渉は2015年5月までに11回を重ね、早期締結に向け、両国経済界の期待が高まっている。